令和７年度学校評価表

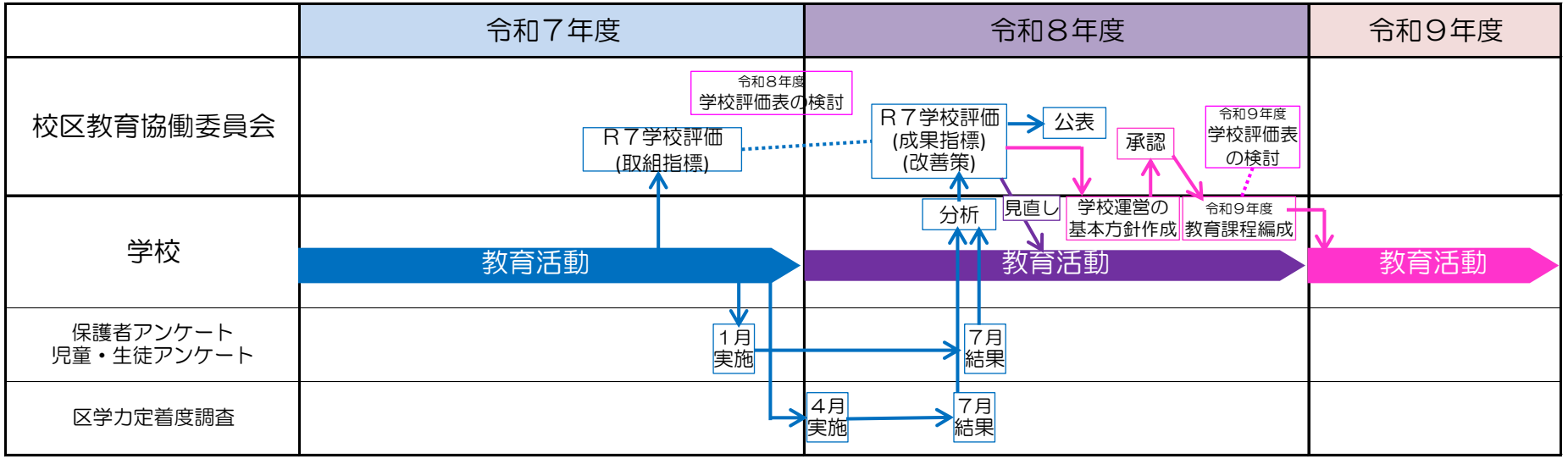
品川区立延山小学校	校長	尾上　佐智子
延山小学校校区教育協働委員会	委員長	叶　雅之

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正　令和5年３月２４日 教育長決定 要綱第５号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

⑴ 学力に関すること。
⑵ 人間性や社会性に関すること。
⑶ 体力・健康に関すること。
⑷ いじめ防止の取組に関すること。
⑸ 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。
学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和７年度の学校評価が令和８年度および令和９年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和７年度　学校評価　品川区立延山小学校

評価項目１　学力に関すること

重点目標	○基礎的基本的な学力を身に付けさせる。 ○各教科の見方・考え方を働かせた学習の充実を図り、思考力・判断力・表現力等を育み、学力向上を目指す。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	他者との協調を大切に、主体的に物事に関わり、もてる力を発揮できる子どもの育成	「主体的に学習に取り組む児童の育成～学びの過程を重視した授業づくり～」を研究主題に掲げ、授業改善に取り組んだ。物事に主体的に取り組もうとする児童の姿が見られ始めてきた。	B	主体的に学習に取り組む児童の育成を追究しつつ、学習が探究的な学びになるように、授業改善を図っていく。研究推進委員会で来年度の方向性を探る中で探究的な学習についてどのように取り入れていくかを検討し、研究構想図に組み入れていく。
	校内研究を推進し、年3回の研究授業・研究協議会を行う。成果・課題・改善策を明らかにし、各教員自身の授業力の向上を図る。	各学年１回、年6回の研究授業を行い、外部講師からの指導講評を受けた。課題、改善点を具体的に指摘され、それぞれの教員が自分自身の授業に生かすことができた。	B	
②	学習規律や学習習慣の確立と確かな学力の定着	学習規律については概ね達成できつつあるが、学力の定着において十分行き届いていない部分がある。	B	全教員で学習規律の共通理解はもっていても、学年・学級によって達成状況に偏りがある。生活指導部会からの声掛けを促し、全教員の共通理解から共通実践となるよう生活指導主任を中心に徹底を図っていく。 基礎・基本の定着に向けて『未来塾』を活用しているが、利用が一部の児童に限られてしまっている。今後、指導助手の配置時数を増加するなどして、個別支援体制を強化していく。
	「延山小のきまり」に基づき、学習習慣・学習規律（学習用具の準備、返事、始終の挨拶、言葉遣い、姿勢等）を確立する。	年度当初に「延山小のきまり」に基づいて全教職員で確認を行った。iPadの管理状況に課題が残り、有効活用しつつも使用ルールについては見直す必要がある。	B	
	各種学力調査の結果分析に基づき、課題解決に向けた授業改善を行う。	学力調査の結果分析を基に、授業改善のポイントをまとめた。つまずきの多い領域については、余分に授業時間数を確保し、復習や振り返りの時間に当てるなど指導を充実させることができた。	B	
③	学習意欲が高まる授業づくり・個に応じた指導の充実	児童と共に学習計画を立てることで課題を自分事として捉えさせることができ、学習意欲の向上につながった。個に応じた指導を充実させることについては、課題として残った。	B	全員が一定の学習目標を達成できるよう、進度や学習方法、時間を個別に調整できるように単元の一部から『個別最適な学び』を充実させていく。教員は、つまずいている児童への個別支援やより深い学びを求める児童への発展課題の提供など、伴走者としての支援に注力する。AIドリルなどを活用し、各自のスピードで問題演習や復習を進められるようにする。
	授業の導入や教材・教具の工夫、デジタル教科書等ICTを活用し、一人一人の興味・関心、学習進度、学習到達度、学び方に応じた指導を行う。	ほぼ毎時間ICTが活用され、効果的に資料を提示することで興味・関心を十分に高められている。しかしながら、依然として多くの授業が一斉授業で行われており、授業改善に向けた取り組みが必要。	B	
	学校図書館を活用した調べ学習を意図的に授業に取り入れる。	学校図書館スタッフと連携し、単元に応じた書籍資料を事前に収集。当該学年のフロアにブックトラックを設置するなどして、児童が必要に応じていつでも手に取れる環境を整えることができた。	B	

Ａ＝十分達成できた　Ｂ＝おおむね達成できた　Ｃ＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立延山小学校

評価項目２　人間性や社会性に関すること

重点目標	○多様性を理解し、多様な他者を尊重する豊かな心を育成する。 ○互いを尊重し、よさを認め合い、思いやる気持ちを育むことを通して、自己肯定感を高めさせる。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	生活に関する規律の徹底	概ね達成された。年度当初、規範意識などに課題が感じられていた部分も、年度末には粘り強く指導した成果が表れてきた。	B	生活指導に関しては、年間を通じて繰り返し継続的に声掛けを続けることが必要。代表委員会による活動は全校児童に馴染みやすく、効果が大きいので、今後も積極的に支援する。
	すべての学級で「挨拶」「かかわり」「時間厳守」「責任」「整理整頓」の指導をし、9割の児童に定着させる。	「挨拶」については、代表委員会による主体的な活動が全校に浸透した。「時間厳守」「責任」「整理整頓」については、学級の実態に偏りが見られる他、「かかわり」については全校的に継続指導が必要である。	B	
②	「延山小の学校のきまり」による指導の徹底	全教室に「延山小学校のきまり」を掲示し、年度当初に共通理解を図った。	B	生活指導部会で「延山小の学校のきまり」を見直し、児童の意見も反映させながら、より分かりやすく実態に即したものにしていく。年度当初に各学級で児童と一緒にきまりを確認する時間を設ける。全教職員間で指導の差が生まれないように、生活指導部会の中でズレが生じていないか毎回確認する。
	各学年月１回学年集会を行い、学年全体で意識をそろえて指導に当たるようにする。	必要に応じて学年集会を行い、学級間で指導のズレが生じないように取り組んだ。タブレットPCの扱いについては、ルールの見直しが必要。	B	
	指導の充実や学年全体の生活指導をそろえるため、交換授業や給食や掃除などの指導の交換を適宜行う。	学力調査の結果分析を基に、授業改善のポイントをまとめた。つまずきの多い領域については、余分に授業時間数を確保し、復習や振り返りの時間に当てるなど指導を充実させることができた。	B	
③	学びに向かう力　人間性の育成	学校行事では多くの児童が主体的に取り組もうとする姿勢が見受けられた。教科学習において、困難な課題にも意欲的に取り組み、試行錯誤しながら追究する姿勢を身に付けさせることが課題。	B	日々の様々な対応に追われている学校現場で、時折『目指しているもの』を見失ってしまう現状がある。年度当初に学校経営方針で示されている『目指す児童像』の具現化に向けて、全教職員が同じイメージをもち続けながら児童と関わっていけるよう、キャッチコピー化して掲示する。キャリア・パスポートについては、保管場所を各教室にするとともに、市民科部会の中に『キャリア・パスポート』担当を置き、来年度１年かけて書式から見直す。
	学年目標を体現している価値ある行動を繰り返し取り上げ、具体的な行動や姿を通して目標の達成状況を児童に意識させ、個人や集団での自己肯定感を高めさせる。	全校的に「前向き行動支援」を基盤とした指導が浸透しつつある。担任だけでなく、児童に関わる全ての職員が共通意識をもって児童の健全育成に当たり、支援を必要としている児童の自己肯定感の向上につながった。	B	
	各教科・領域及び、学校行事や市民科一貫プランの推進、児童会活動、クラブ活動、異学年交流の取り組みを実施する中で、キャリアパスポートを用いながら主体性をもって活動する児童を育てる。	市民科一貫プランにある「地域交流」に重点を置いて探究学習に取り組んだ。活動自体は充実できたものが多いが、キャリア・パスポートの活用において課題が残った。	B	

Ａ＝十分達成できた　Ｂ＝おおむね達成できた　Ｃ＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立延山小学校

評価項目３　体力・健康に関すること

重点目標	○運動能力と情意の維持・向上への取り組みの充実により、生涯にわたる健康の保持増進に向けた運動習慣の定着を目指す。 ○体力向上に向けた取り組みの充実と、望ましい食習慣を育む食育の推進を図る。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	昨年度の体力調査の結果で平均よりも低い水準にあった能力（ボール投げ・シャトルラン）を平均以上にする。	全校的にどの項目においても、ほぼ都平均か平均よりやや上回る結果であった。特に「ボール投げ」「シャトルラン」で改善が見られた。	A	体力に関して、体力調査の数値の上では改善が見られているが、体力向上が着実に図られているかどうかを追跡調査し、しっかりと見極めていく。 体育の授業で取り組むそれぞれの運動が、どの技能の向上をねらっている運動なのか意識して指導できるよう実技研修会を行う。
	体育の授業でボール投げや持久力の向上を意識した取り組みを行う。ICT機器を効果的に活用し、運動技能の向上を図る。	安易にルールを簡素化せずに、「投げる」技能の向上が図れるように体育の授業改善を行った。外遊びの奨励の他、冬季に取り組んだ「持久走」の成果が表れた。	A	
②	自らの健康を意識できるような保健指導	健康診断時に合わせて養護教諭から全学級に保健指導を行い、意識の向上を図ることができた。	A	自らの健康を意識させるための方策については、現状行っている取り組みを継続、発展させ、意識の向上を図る。 学校の様子で気になる児童については、家庭との個人面談などに養護教諭も同席するなどして相談体制を充実させる。
	学校だよりや保健だより等で「早寝・早起き・朝ごはん」に関する取組の必要性を啓発し、個人面談等で児童の実態を保護者に伝える。	養護教諭から保健だよりを通じて啓発を行った。場合に応じて、個別に家庭と連携していく必要がある。	B	
	第3学年で外部人材による歯みがき指導を実施し、歯の健康等自らの健康について考えさせる。	学力調査の結果分析を基に、授業改善のポイントをまとめた。つまずきの多い領域については、余分に授業時間数を確保し、復習や振り返りの時間に当てるなど指導を充実させることができた。	B	
③	児童が食に関する知識や技能を習得し、健康的な食習慣を身につけ、生涯にわたって健康的な生活を送るための基礎を培う。	給食委員会による企画、毎日の校内放送などを通して、健康的な食習慣に対する意識の向上が感じられる。	A	給食委員会の活動は、今後も児童の主体性を育みながら継続・発展させていく。給食時間での栄養士による食育指導についても、学年の発達段階に応じて『食』への関心が高まるよう内容を工夫しつつ継続していく。給食の画像をHPにアップするとともに、献立の説明やレシピなどもダウンロードできるようにするなど、家庭でも給食への関心がより高まるよう充実させていく。
	給食指導を中心に、社会科や家庭科等、他教科と関連させながら食育を推進する。6月の食育月間は学校栄養職員と連携し、食育の充実を図る。	給食時間に栄養士による食育指導を充実させることができた。献立作りに関わらせる取り組みにより、食や栄養への意識が高まった。	A	
	給食指導や給食だより等を通して食育に関する情報を提供する。	給食だよりに加えて、HPにその日の給食を画像でアップするなどして、情報の提供に努めることができた。	B	

Ａ＝十分達成できた　Ｂ＝おおむね達成できた　Ｃ＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立延山小学校

評価項目４　いじめの防止の取組に関すること

重点目標	○常に相手の立場に立って関わる気持ちといじめを絶対に許さない強い気持ちを育む。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	いじめに関する各調査を活用し、早期発見・早期対応を徹底する。	各調査で複数の書き込みがあった際に、対応に時間を要してしまうこともあった。周囲と連携して即応する意識をさらに高めていく。	B	各調査の結果を担任だけで確認、把握するのではなく、担任以外にも確認作業をする職員を配置するなど複数体制をとる。また、毎週火曜日の生活指導夕会の中で確認する時間をつくる。
	デイケン・いじめDアンケート・Nicoli・学校風土調査を確実に実施し、結果に基づき児童への面接・保護者との連携を行う。	各種調査により、いじめの兆候を察知した場合は児童への聞き取りを行い、些細なことでも報告連絡相談を徹底してきた。家庭との連携も迅速に行うよう努めた。	B	
②	思いやりあふれる、いじめのない学級づくり	依然として、いじめの発生件数は0とはなっていないが、年2回の学校風土調査によると、いじめの起きにくい学級風土が少しずつ醸成されてきている。	B	年間3回のいじめ授業に加えて、年度に複数回、全校朝会で校長からいじめについての講話を行う。校区教育協働委員にも働きかけて、地域でも子どもたちを温かく見守っていただけるよう連携する。また、代表委員会の『よりよい学校づくり』に向けた取組を応援し、児童が自らいじめの起きにくい風土づくりを醸成していく支援をする。
	前向き行動支援を教職員が実践し、児童一人一人のよさを見つけ、よい行動を価値づけ、行動の強化を図る。	前向き行動支援を基盤にした指導は、全教職員に浸透しつつある。引き続き、粘り強く継続的に指導していく必要がある。	B	
	いじめ防止授業を各学期1回実施する。市民科や全教育活動を通して、他者への思いやりや多様性を受け入れる気持ちを育てる。	学力調査の結果分析を基に、授業改善のポイントをまとめた。つまずきの多い領域については、余分に授業時間数を確保し、復習や振り返りの時間に当てるなど指導を充実させることができた。	B	
③	学校いじめ防止基本方針に基づく対応	一つ一つの案件について学校いじめ防止基本方針に基づいた対応を行った。	B	いじめへの対応は引き続き「学校いじめ防止基本方針」に則って迅速かつ丁寧に対応する。いじめ防止研修を年3回行い、教員以外の職員も参加することとし、全教職員で軽微ないじめも見逃さない体制を構築する。
	軽微ないじめも見逃さず、学校いじめ対策委員会を迅速に開いて対策を協議し、方針や対応を全教員で共有する。	いじめが認知された際には、その日のうちにいじめ対策委員会を立ち上げて対策を協議し、できる限り迅速な対応を図った。その都度、教育委員会とも連携し、組織的に対応した。	B	
	生活指導夕会等での情報共有では、共通認識・共通対応となる事項を確認し、組織的な対応が図れるようにする。	毎週火曜日に生活指導夕会を行い、全教員で情報共有を行った。必要に応じて、講師や用務主事、事務員などにも共有し、すき間なく大人の目が行き届く体制を構築した。	A	

Ａ＝十分達成できた　Ｂ＝おおむね達成できた　Ｃ＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立延山小学校

公開・非公開の選択

評価項目５　（特色ある教育活動に関すること）

重点目標	○身近な地域の中から課題を発見し、解決方法を創造できる児童の育成を目指す。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	地域を題材にした問題解決学習（PBL）に市民科一貫プランとして取り組み、探究的に学びながら思考力・判断力・表現力等を育む。	地域を活用した学習が、さらに探究的な学びになるよう指導計画を再構築する必要がある。	B	市民科一貫プランを連携校とともに再度見直し、来年度に向けて本校の指導計画を精査していく。市民科部会で今年度の活動を振り返り、来年度に向けて探究的な学びを充実させていけるよう単元計画を立てる。
	地域の人材等を活用した体験的な学習活動を年間3回以上行う。	地域の方々の協力を得て、地域を活用した学習を充実させることができた。学年によって活動計画に偏りが見られるので、包括的に計画を見直し、系統的に配置し直す必要がある。	B	
②	本校の歴史や地域の移り変わりに触れる取り組みや学習を行い、創立145周年である本校への愛校心をもたせる。	代表委員会を中心に企画・運営する145周年記念集会に向けた準備の中で本校の歴史、地域の移り変わりに触れ、クイズやパネルディスカッションの内容に生かすことができた。	A	145周年記念集会に向け、代表委員会の児童が地域の方々と協力して企画、運営した取り組みはとても充実した。全校児童で愛校心を深める機会となり、地域の方々に支えられているという実感をもつこともできた。今後は改めて地域の方々と連携し、150周年に向け少しずつ準備を始めていく。
	代表委員会の児童が企画・立案を行い、145周年記念集会を開催する。	代表委員会の児童と地域の方々が協力して145周年記念集会を開催することができた。多くの地域の方々を来賓として招き、時代を越えて愛校心をもって創立を祝うことができた。	A	
	児童の考えたデザインを生かして、航空写真撮影を行い、愛校心を高める。	学力調査の結果分析を基に、授業改善のポイントをまとめた。つまずきの多い領域については、余分に授業時間数を確保し、復習や振り返りの時間に当てるなど指導を充実させることができた。	B	
③				

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成